

パーベル・ブダビチェンコ氏を迎え、講演・交流会

ロシアのチェルノブイリ高汚染地での25年 ～ 人々の暮らしと想い ～

ロシアのNGO「ラディミチ～チェルノブイリの子どもたち～」のパーベル・ブダビチェンコ氏(国際プログラムマネージャー)が4月末から、原水禁などの招聘で来日し、全国各地を回ります。「ラディミチ」は、私たち「救援関西」が支援するベラルーシの子どもたちが保養に行っている、ロシアの非汚染地域の「ノボ・キャンプ」を運営しています。

「ラディミチ」の本部のあるロシアのブリヤンスク州ノボツィプコフは、チェルノブイリ原発からは キロも離れていますが、放射能汚染のために本来なら移住をすべきとされた高汚染地(セシウム137で $550,000 \text{ベクレル}/\text{m}^2 = 15 \text{キュリー}/\text{km}^2$ 以上)となっていました。

しかし、当時の街の人口は6万人もあり、住民の多くは移住する費用もなく、また周囲からの差別なども受ける中で、「高汚染地に住み続ける」という苦渋の選択をせざるを得ませんでした。「子供たちや孫たち、またその子どもたちが、今後もこの汚染地で暮らすことは、『私たちの悲しい十字架、チェルノブイリの十字架』です。原発について、その必要性を語る人々はチェルノブイリ事故のもたらした犠牲の大きさを知らない人たちです。」とパーベルさんは語っています。汚染地で暮らすことの葛藤、放射能と闘う日々の中で、住民達がお互いに助け合いながら未来を切り開いてゆこうと、事故後間もなく若い人々とともにボランティア活動に取り組み、その活動の中から「ラディミチ」が生まれました。日本での大震災と津波、福島原発事故の事態に、日本の人々との協力を強めたいと来日の想いを伝えてくれています。ぜひ、講演・交流会にご参加下さい！



5月2日(月)

大阪市立 **総合生涯学習センター**

第一研修室(大阪駅前第2ビル5階)

時間:午後6時半～8時半



主催: チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

問い合わせ: 0797-74-6091 たなか 0798-44-2614 ふりつ